

Data(2013年7月現在)

所在地: 〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1

スタッフ: 藤井智子(教授), 塩川幸子(講師), 杉山さちよ(助教)

URL <http://www.asahikawa-med.ac.jp/>



旭川医科大学看護学科地域保健看護学分野

History and Now

どのような機関なのでしょう?

本学は1973年に雄大な大雪山連峰を望む場所に最北の国立医科大学として開学し、看護学科は1996年に設置されました。北海道の北部に設立された背景には、広域な面積を有し医療の地域偏在が著しい地域の課題があります。本学の教育目標の1つに「地域・僻地住民の医療や福祉を理解し、それらに十分貢献しうる意欲と能力を獲得する」ことが掲げられています。開学以来、多くの医療者を北海道中心に輩出しており、保健師も毎年7、8名程度、道内各自治体に就職しています。地域医療に根ざした教育をめざし、医学・看護学との協働で地域に貢献できる人材育成を行っています。

Education

どのような教育をしていますか?

2012年度のカリキュラムから公衆衛生看護学は選択制となります。めざす保健師像として、開拓者精神にあふれ、問題にぶつかりながらも地域の人々とともに、より健康的な地域づくりを創造的に進めていける、豊かな人間性をもつ人材を育てていきたいと考えています。これまでも早期体験実習として、2学年のうちから道北・オホーツク・十勝の自治体病院で実習し、各地域の看護師、保健師と出会う機会をつくり、産業体験をすることで、第一次産業を中心に生活している北海道の地域性に関心をもつよう工夫してきました。これを基盤にさらに市町村、保健所で実習し人々の暮らしと健康問題を関連づけ、地域の人々および関係職種とともに、課題解

決するための連携調整の技術に焦点をあてたカリキュラムを検討中です。

Research

どのような研究活動を行っていますか?

教員が各自テーマをもちながら研究に取り組んでいます。現場とのつながりから見てきた現任教育における課題、地域包括ケア体制の構築、ひきこもり・依存症のグループ支援など幅広い地域の課題に取り組み、さまざまな活動を実践知として明らかにすべく努力しているところです。また今後は、保健師活動を継承していくための研究にも取り組む予定です。研究を実践していくためには現場との連携が欠かせません。期待されていることは何かを常に意識しながら進めていきたいと考えています。

Collaboration

保健活動と現場とのつながりは?

実習では近隣市町村・保健所と協力体制を組み、効果的な学習に向け連携しています。保健師の現任教育や人材確保について道北・道東などの現場の保健師からの相談も多く、一緒に課題に向き合い試行錯誤しながら、基礎教育との連動も考えつつ取り組んでいます。また、2008年度よりJICA アフリカ地域保健行政の研修を受け入れており、オホーツク地域の市町村にフィールドワークの協力要請を行い、保健師活動をアフリカの行政官に発信する機会をつくっています。このようにローカルとグローバルのネットワークを大事にし、多様な価値観・文化、さまざまな刺激を受けながら研鑽を重ね、地域に貢献していきたいと考えています。

ひとこと

春夏秋冬、多様な山の顔を研究室から眺め、楽しみ癒される環境で教育できることに感謝しつつ、新しいカリキュラムを構築する責任の重さに身の引き締まる思いです。学生たちにも自然豊かな旭川で学習できてよかったと思えるような環境を提供し、羽ばたいてほしいと思っています。……藤井

あなたの研究室を紹介してください! 保健師ジャーナルでは、このページに登場してくださる研究室(保健師教育に関わる講座・分野・領域)を募集中です。研究室での保健師教育の特色や、研究活動、現場とのつながりを紹介してください。

応募について ●まず電話、FAX、E-mailにて編集室までご連絡ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈いたします。

連絡先 ●医学書院「保健師ジャーナル」編集室 ☎ 03-3817-5774 FAX 03-5804-0485 ✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp